

畝傍山風致保全方針

1 地区の概況

大和三山の一つとして、歴史的、景観構造的に重要な要素である畝傍山の保全に努めるとともに、神武天皇陵、橿原神宮及びそれらを含む森林の保全、周辺集落と史跡との調和を図る。また、地区の北東に位置する、藤原宮跡からの眺望の保全・確保を重視するものとする。

畝傍山においては、森林が自然のまま保護されており、山や森林全体は常に奈良盆地より広く遠景として眺められる対象となっている。森林の保全とともに周辺集落の屋根並みや森林との調和に配慮する。

また、地区東南部にある公共施設群については、橿原神宮周辺の森林等の自然景観を阻害しないよう、工作物においては、色彩、高さ、形状に配慮し、地区全体の良好な自然環境の維持・保全に努めるものとする。

2 地区の風致特性

(1) 風致構成要素

自然保全＋歴史保全型

(2) ランドマーク

遠景：畝傍山

中景：橿原神宮

近景：橿原神宮

(3) 主な視点場

藤原宮跡、国道169号、国道24号、甘檜丘

3 地区の維持・創出すべき風致の内容

(1) 保護すべき要素

- ・ 畝傍山の稜線、緑地
- ・ 橿原神宮及び周囲の緑地
- ・ 神武天皇陵等の陵墓

(2) 維持・保全すべき要素

- ・ 畝傍山周辺の集落の屋根並み
- ・ 橿原公苑の緑地

(3) 育成すべき要素

- ・ 歴史的環境との調和（屋根並み）
- ・ 緑地との調和（色彩等）

4 ゾーンごとの建築物等の修景に関する方針

○ゾーン1（保護区域）

【概況】

- ・ 畝傍山は豊かな樹林地となっており、奈良を代表する全体景観を維持している。
- ・ 畝傍山の視野に位置する神武天皇陵等の御陵と橿原神宮は、全体が豊かな樹林地に包まれ、歴史的な環境を維持しており、自然と史跡が一体となった風致を保全している。
- ・ 自然と史跡が一体となった歴史的景観全体の保全が必要である。

【方 針】

- ・ 史跡周辺及び樹林地の現況保存を図る。
- ・ 建築物に関しては、史跡との調和を図り、伝統的な和風建築を踏襲したものとする。
- ・ 工作物についても、自然材での仕上げ、あるいは伝統色による彩色等周辺との調和を図る。
- ・ 樹林については、管理・維持目的以外では伐採を行わないものとする。樹林内あるいは樹林に接する建築物、工作物については、高さや仕上げにおいて森林の中で目立たないものとし、周囲に極力緑化を施す。

○ゾーン3（維持・保全区域）

【概 況】

- ・ 丘陵の麓の農地等であり、国道24号等よりの眺望において、隣接する史跡と一体となった全体景観を見せている。
- ・ 背後の史跡や森林との調和の維持を図ることが、今後も課題である。

【方 針】

- ・ 建築物については、周辺の歴史的景観、緑地等に調和する高さ、形態、色彩とする。
- ・ 工作物については、周辺の歴史的景観、緑地等に調和する形態、色彩とする。
- ・ 緑地の残置、緑化の推進を図る。特に、敷地の周囲は緑化に努める。

○ゾーン4（維持・保全区域）

【概 況】

- ・ 丘陵の裾の農地等であり、集落の中の緑地として、緑の多い環境を形成している。
- ・ 視点場から丘陵への眺望には影響しないが、丘陵地との調和の保全が必要である。

【方 針】

- ・ 建築物、工作物については、周辺の緑地や集落に調和する形態、色彩とする。
- ・ 緑地の残置、敷地の緑化を図る。特に、道路面への緑化を図る。

○ゾーン7（維持・保全区域）

【概 況】

- ・ 主に丘陵の麓の住宅地となっており、新旧の住宅が混在している。
- ・ 遠景として、背後の畝傍山との調和を図るため、屋根並みの一体感の維持が課題である。

【方 針】

- ・ 建築物の形態、色彩は周囲のまちなみに調和するものとし、緑地を背景としたまちなみの統一感の維持を図る。
- ・ 工作物については、周辺のまちなみ、緑地に調和する色彩とする。
- ・ 緑地の保全、緑化の促進を図り、背後の緑地との一体感を高める。特に、生垣等道路への緑化の推進を図ることにより、まちなみの一体感を維持する。

○ゾーン9（育成区域）

【概 況】

- ・ 橿原神宮の森林に隣接したスポーツ施設等の公共施設である。
- ・ 風致地区にふさわしい公共建築物として、歴史的景観及び自然に調和するもので

あることが、課題である。

【方 針】

- 建築物、工作物については、周辺の緑地と調和するような色彩とする。
- 建築物周辺の敷地が大きく、まちなみへの視覚的影響も大きいため、敷地外周に中高木を配置する。